

2003. 3. 21

アメリカ合衆国 大統領  
ジョージ・ブッシュ殿

新日本宗教青年会連盟 委員長  
力久道臣

### イラク問題に関する平和的解決を求める要望書

我々、新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、SYL）は、日本で50年間活動続ける宗教青年の連盟であります。活動の目的は、宗教協力、人類福祉の向上、世界平和実現であり、日々努力精進しております。これまで様々な活動を通じて、教義、信条が違っていても互いが理解し合えば協力することができるかと確信しております。またすべての存在には、神仏から授かった尊いいのちが宿り、互いに尊重し合う関係こそが、我々が目指す世界平和であります。

しかしこれまでの歴史において人類は、いのちを奪い合うことを繰り返してきました。歴史は繰り返されるものと言われますが、あまりにも尊いいのちが簡単に奪われすぎています。21世紀の幕開けに起こった貴国での同時多発テロ事件は、私達に深い哀しみと絶望を与えました。先日、我々は、ニューヨーク、グラウンド・ゼロにおいて犠牲者へ慰霊の誠を捧げ、二度と同じ惨劇が繰り返されないことを神仏に祈念いたしました。あらためていのちの尊さを実感いたしました。また、貴国の懸念されるイラクが保有する大量破壊兵器は、唯一の被爆国である日本にとっても大変憂慮することでもあります。一人の思惑で国民が犠牲になることに目を背ける事は出来ません。

この問題に対し、我々は、在日イラク大使館へ国連の査察へ協力するよう意見書を提出いたしました。

そこで、我々は、貴国に対し、今回のイラク問題に関して、平和的解決を要望いたします。それは、貴国の国民もイラクの国民も神仏から見ると同じ尊いいのちを持った存在であり、決して人間同士で奪い合うものではないと信じているからです。武力に対し武力で解決する事は、憎しみの連鎖を生み出し、そこで犠牲になるのは尊いいのちだけです。是非、代表者同士の対話による平和的解決を目指して頂きたく、ここに要望書を提出いたします。